



桃の花

晩春に咲く桃の花は、淡紅色で愛らしく、人の目を楽しませ和ごませてくれます。原産地は中国ですが梅や桜とともに、現在では日本を代表する春の花といえるでしょう。また、別名「草綿の実」。

最近では、採果用として桃畑に栽培されることが多いようですが、庭に植えて花を楽しむ観賞用としてのほうが歴史は古く、万葉集の中にも多くの詞が収められております。さかんに改良も行われ、源平や紅葉、寒緋など多くの品種が作られました。

「灯をつけましょぼんぼりに、お花をあげましょ桃の花」と歌われるように、雛祭りには欠かすことのできない花であり、女兒の誕生と成長にこと寄せた大和民族の心のやさしさのまほろばが匂う花です。

「春の苑紅にほふ桃の花

下照る道に出で立つ乙女」

大伴家持